

2013.4.6

生誕200年 ワーグナーとヴェルディ 第2回 二大オペラ作曲家

プログラム

今年生誕200年を迎えた二大オペラ作曲家、ワーグナーとヴェルディを特集するシリーズの第2回です。タンホイザーは1842年に着手され、1845年に完成されたワーグナー5番目のオペラです。官能的な快楽の世界とキリスト教的禁欲の世界の間で苦悩するタンホイザーの姿を通して愛の本質を掘り下げた、生気に満ち溢れた傑作です。ドレスデンで初演された版が一般的ですが、1861年パリ・オペラ座での上演に際してバレエ音楽として序曲から切れ目無しに移行する「バッカナール」を追加したのが、パリ版です。今日のパリ版で上演されたラインスドルフ指揮による1972年バイロイト音楽祭での演奏は、バッカナールの魅力と共に、躍動感溢れる生き生きとした音楽表現で、このオペラの魅力を伝える名演となっています。

アイダは1870年に完成され、古代エジプトを舞台にエジプト将軍ラダメスとエチオピアの王女アイダとの悲劇を描いたヴェルディ後期の名作です。美しい旋律と劇的表現、壮大華麗な管弦楽など、全編が魅力に溢れています。スエズ運河開通を記念して作曲されたと言われてはいますが、完成が1869年スエズ運河開通より後と言う事もあり、必ずしも正確ではありません。しかし、スエズ運河開通の一環として完成したオペラ劇場の式典音楽の依頼から作曲され、断った場合にはワーグナーに、という依頼者の意図がヴェルディのワーグナーに対するライバル意識を高め、この傑作を完成させたというのも興味深い話です。今日は自ら演出も兼ねた豪華キャストによるカラヤン指揮のザルツブルク音楽祭での名演でお楽しみください。

リヒャルト・ワーグナー (1813~1883):

歌劇“タンホイザー”～

第1幕 序曲～バッカナール

第2幕 “貴き殿堂よ(エリーザベトのアリア)”

“タンホイザーとエリザベトの愛の二重唱”

入場行進曲

第3幕 “エリザベトの祈り” / “夕星の歌(ヴォルフラムのアリア)”

終幕の場

ヒュー・ベレスフォード(テノール)…タンホイザー/ベルント・ヴァイクル(バリトン)…ヴォルフラム
ギネス・ジョーンズ(ソプラノ)…エリーザベト&ヴェーヌス/ハンス・ゾーティン(バス)…ヘルマン
ハラルド・イク(バリトン)…ワルター/フランツ・マズーラ(バス)…ピテロルフ
エーリッヒ・ラインスドルフ指揮バイロイト祝祭管弦楽団/バイロイト祝祭合唱団
(1972.7.21 バイロイト祝祭劇場でのLive 演出: ゲッツ・フリードリッヒ)

*** 休憩 ***

ジュゼッペ・ヴェルディ (1813~1901):

歌劇“アイダ”～

第1幕 前奏曲～“清きアイダ”(ラダメスのアリア)

“勝って帰れ”(アイダのアリア)

第2幕 導入部 / 凱行進曲とバレエ音楽～フィナーレ

第3幕 父アモナスロとアイダの二重唱 / フィナーレ

第4幕 “さらばこの世”(終幕の場-ラダメスとアイダの二重唱)

ミレルラ・フレーニ(ソプラノ)…アイダ/ホセ・カレラス(テノール)…ラダメス
ピエロ・カプッチルリ(バリトン)…アモナスロ/マリリン・ホーン(メゾ・ソプラノ)…アムネリス
ニコライ・ギャウロフ(バス)…ランフィス/ルツジエロ・ライモンディ(エジプト王)
ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団/
ウィーン国立歌劇場合唱団/ソフィア国立歌劇場合唱団
(1979.7.26 ザルツブルク祝祭大劇場でのLive 演出: ヘルベルト・フォン・カラヤン)